

第3章 日常生活圏域ニーズ調査・高齢者等実態調査結果

1. 調査の設計と実施概要

(1) 調査の目的

平成 29 年度の高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（平成 30 年度～平成 32 年度）」の策定に向け、地域の高齢者の状況を把握することで、地域課題を把握（地域診断）して地域の目標を設定すると共に、高齢者の生活状態に合った介護（予防）サービスや社会参加の促進等各種福祉サービスの検討など計画策定の基礎資料とすることを目的として実施しました。

(2) 調査方法

①調査種類

- ◆在宅要介護(要支援)者調査
- ◆一般高齢者調査
- ◆若年者調査

②配布・回収方法

- ◆在宅要介護(要支援)者調査は、介護支援専門員及び町職員による配布・回収
- ◆一般高齢者調査・若年者調査は、郵送配布・民生委員による回収

③調査期間

平成 28 年 12 月 25 日～平成 29 年 2 月 28 日

※調査期間終了後も一定期間調査票の回収を行いました。

(3) サンプル数及び標本誤差

①回収率・有効回収率

図表 3-1 回収率・有効回収率の状況

区分	配布数	回収数	回収率	有効回収数	有効回収率
一般高齢者調査	400	363	90.8%	339	84.8%
在宅要介護(要支援)者調査	300	292	97.3%	262	87.3%
若年者調査	500	430	86.0%	409	81.8%

※有効回答数は、基本的属性が把握できる調査票とした

②標本誤差(調査の信頼性)

今回の調査の母集団(H28.12:現在在宅要介護(要支援)=331人、一般高齢者=1,548人、若年者2,015人)と回収数から標本誤差を計算すると、標本誤差は下記のとおりとなる(信頼度95%とした場合)。一般的に、標本誤差が5%以内であればよいとされている。

図表 3-2 標本誤差

区分	一般高齢者	在宅要介護(要支援)	若年者
標本誤差	±4.8%	±2.8%	±4.4%

2. 一般高齢者調査結果

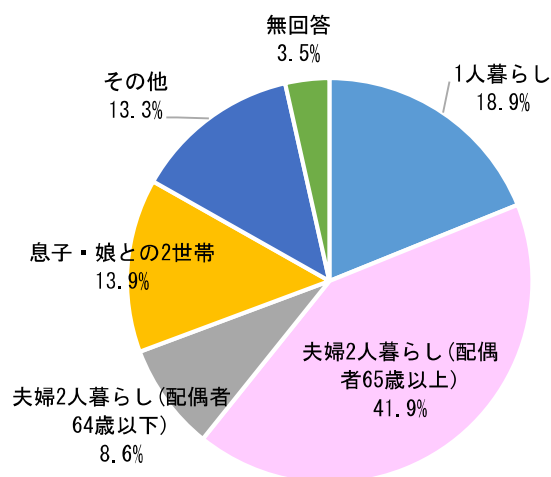
(1) 基本的事項

①ご家族や生活状況

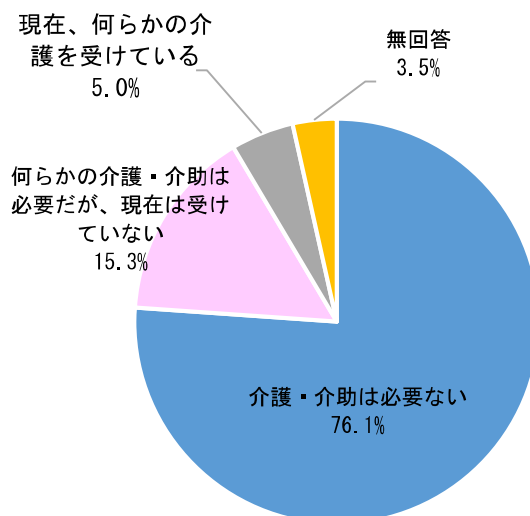
家族構成について、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が41.9%と最も多く、次いで「1人暮らし」の18.9%となっている。高齢者のみの世帯(「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」+「1人暮らし」)は、全体の60.8%となっています。

介護・介助の必要性について、「介護・介助は必要ない」が76.1%であり、介護・介助が必要な方(「介護・介助は必要だが、現在は受けていない」+「現在、何らかの介護を受けている」)は20.3%となっています。

図表 3-3 家族構成



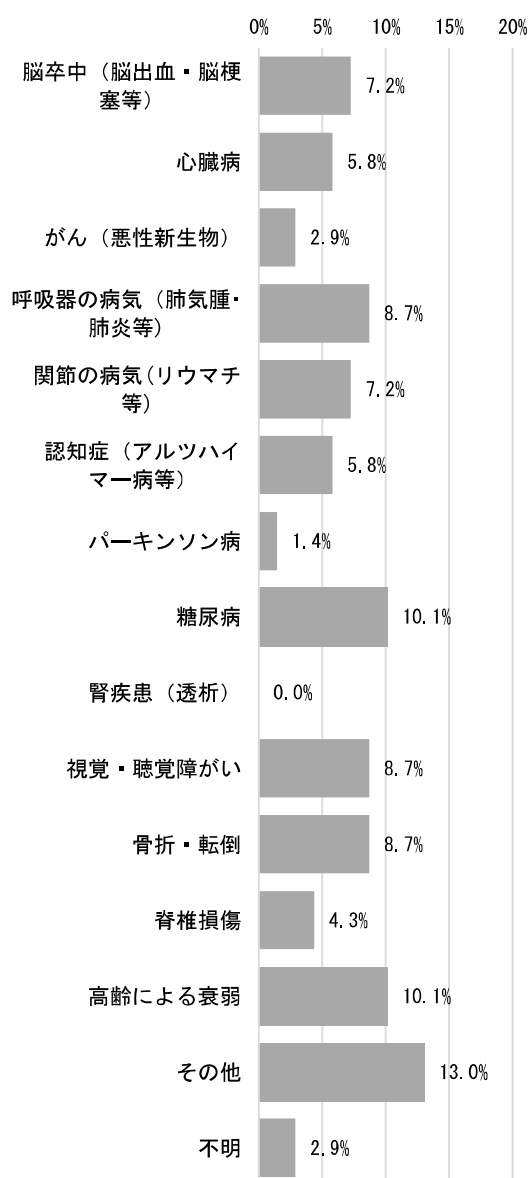
図表 3-4 介護・介助の必要性



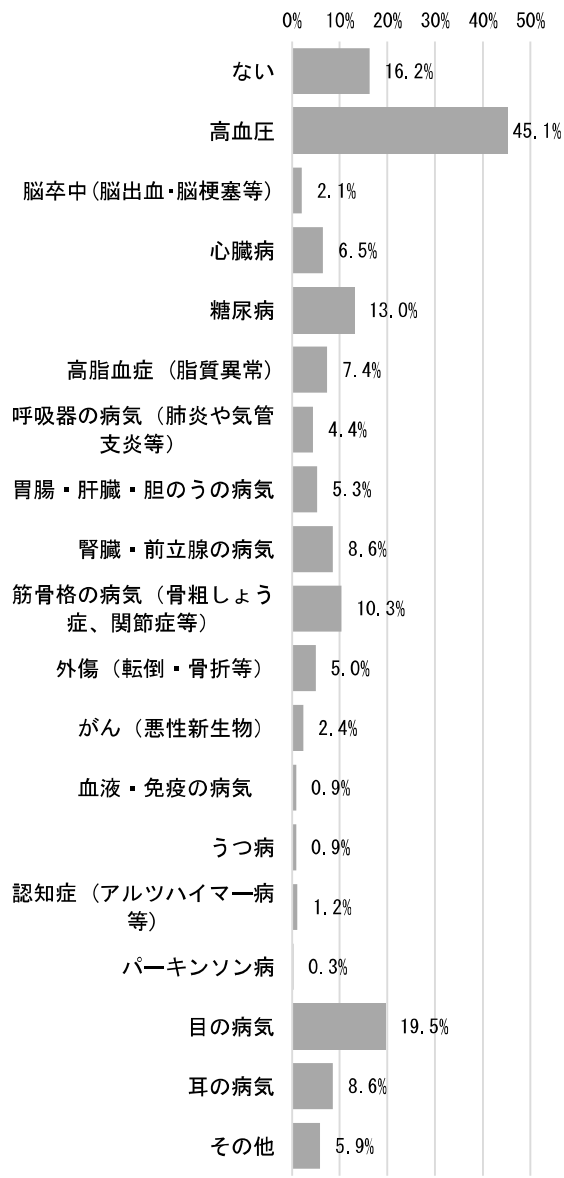
②介護・介助の原因・既往歴等

介護・介助の主な原因上位3位は「その他」、「糖尿病」、「高齢による衰弱」となっている。既往歴について上位3位は「高血圧」、「目の病気」、「糖尿病」となっており、「高血圧」は「脳卒中」や「心筋梗塞」を引き起こすリスクがあることから、これらの既往歴がある方を中心とした介護予防対策が必要です。

図表 3-5 介護・介助の主な原因



図表 3-6 既往歴等



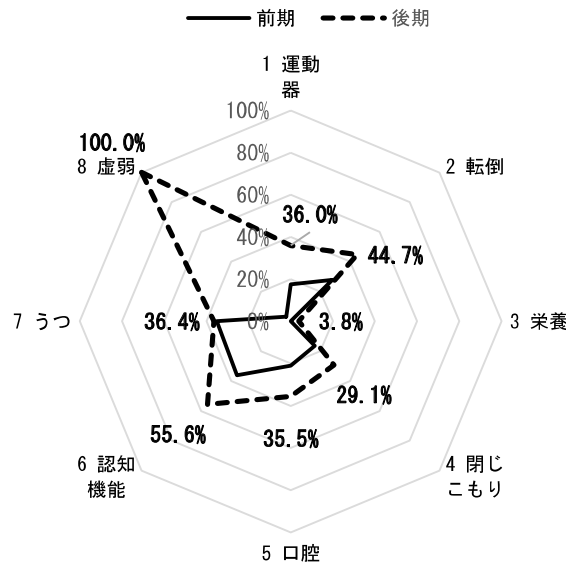
(2) 機能別評価

生活機能の評価項目ごとの該当者（リスクあり）の割合を表したのが以下の図となる。

評価を行うにあたり、それぞれの評価項目で対象設問すべてに解答している方を母数とし該当者の割合を算出しています。

該当者（リスクあり）の割合を年齢別(前期・後期)にみると、「虚弱」において前期と後期の差異が最も大きくなっています。

図表 3-7 年齢別(前期・後期)リスク者割合



図表 3-8 機能評価の対象者数及び該当者割合

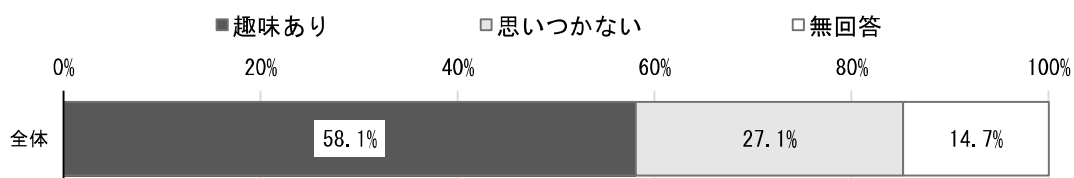
評価項目	年齢別			
	前期高齢者 回答数	該当者割合	後期高齢者 回答数	該当者割合
1 運動器	164	17.7%	136	36.0%
2 転倒	173	27.7%	152	44.7%
3 栄養	167	0.0%	132	3.8%
4 閉じこもり	173	16.2%	151	29.1%
5 口腔	172	20.9%	152	35.5%
6 認知機能	167	35.9%	151	55.6%
7 うつ	163	35.0%	143	36.4%
8 虚弱	225	3.1%	15	100.0%

(3) 日常生活について

①趣味の有無

趣味の有無について「趣味あり」が58.1%、「思いつかない」が27.1%となっています。

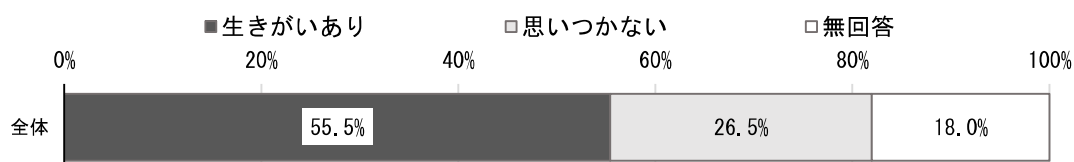
図表 3-9 趣味の有無



②生きがいの有無

生きがいの有無について「生きがいあり」が55.5%、「思いつかない」が26.5%となっています。

図表 3-10 生きがいの有無

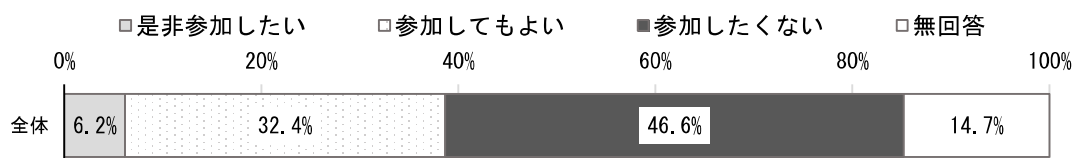


(4) 健康づくり活動や趣味等のグループ活動に対する企画・運営（お世話役）としての参加意思

図表 3-12 グループ活動に対する企画・運営としての参加意思

健康づくり活動や趣味等のグループ活動への企画・運営（お世話役）として参加意思について「参加したくない」が46.6%と最も多いものの、「是非参加したい」、「参加してもよい」と回答した方も38.6%います。

図表 3-11 グループ活動に対する企画・運営としての参加意思

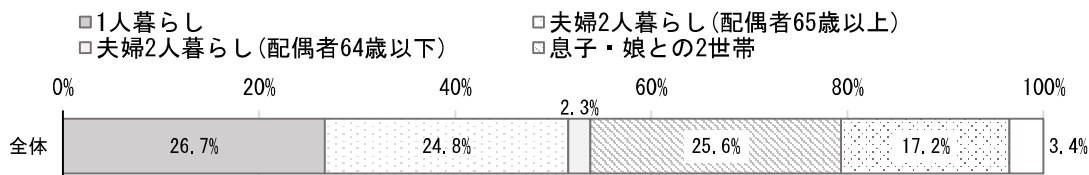


3. 在宅要介護(要支援)者調査

(1) 家族構成

家族構成については、「1人暮らし」が26.7%と最も多く、次いで「息子・娘との2世帯」の25.6%、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」の24.8%となっています。

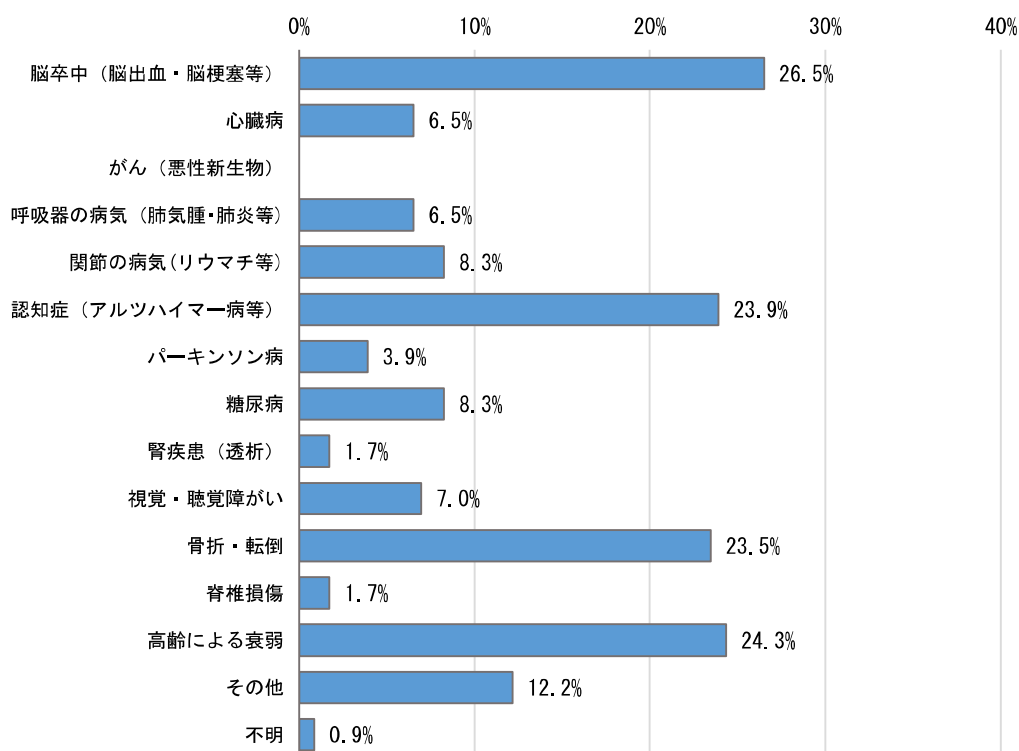
図表 3-12 家族構成



(2) 介護・介助が必要になった主な原因

介護・介助が必要になった主な原因として、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」が26.5%と最も多く、次いで「高齢による衰弱」の24.3%、「認知症(アルツハイマー病等)」の23.9%となっています。

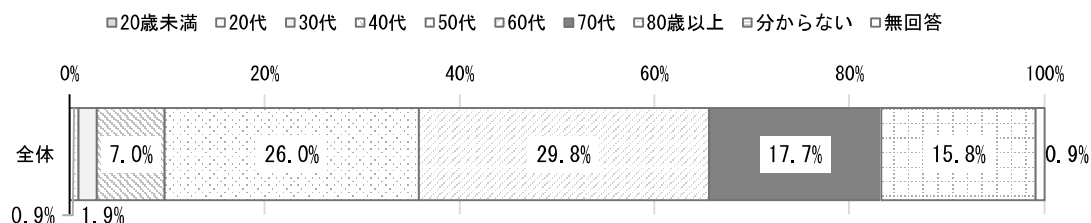
図表 3-13 介護・介助が必要になった主な原因



(3) 介護している方の年齢

介護している方の年齢について、「60代」が29.8%と最も多く、次いで「50代」の26.0%、「70代」の17.7%となっています。

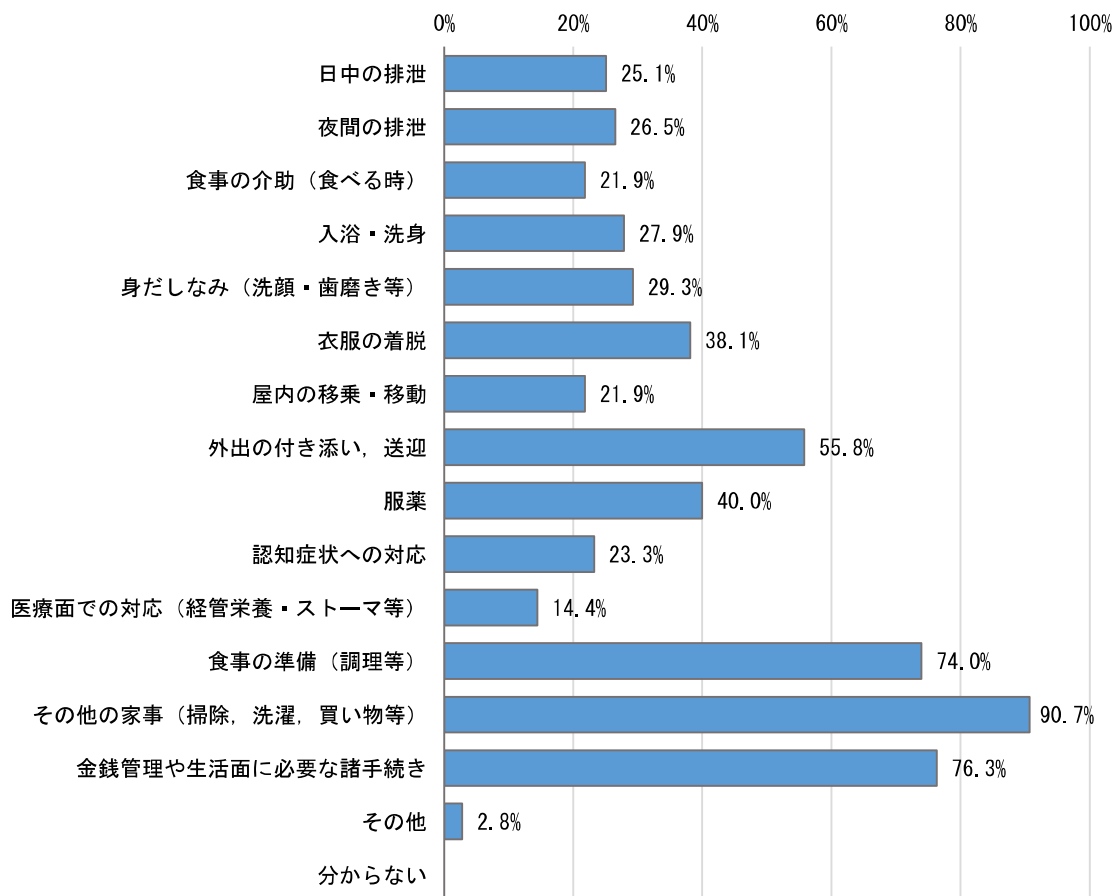
図表 3-14 介護している方の年齢



(4) 主に介護している方が行っている介護について

介護している方が行っている介護について、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が90.7%と最も多く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」の76.3%、「食事の準備（調理等）」の74.0%となっています。

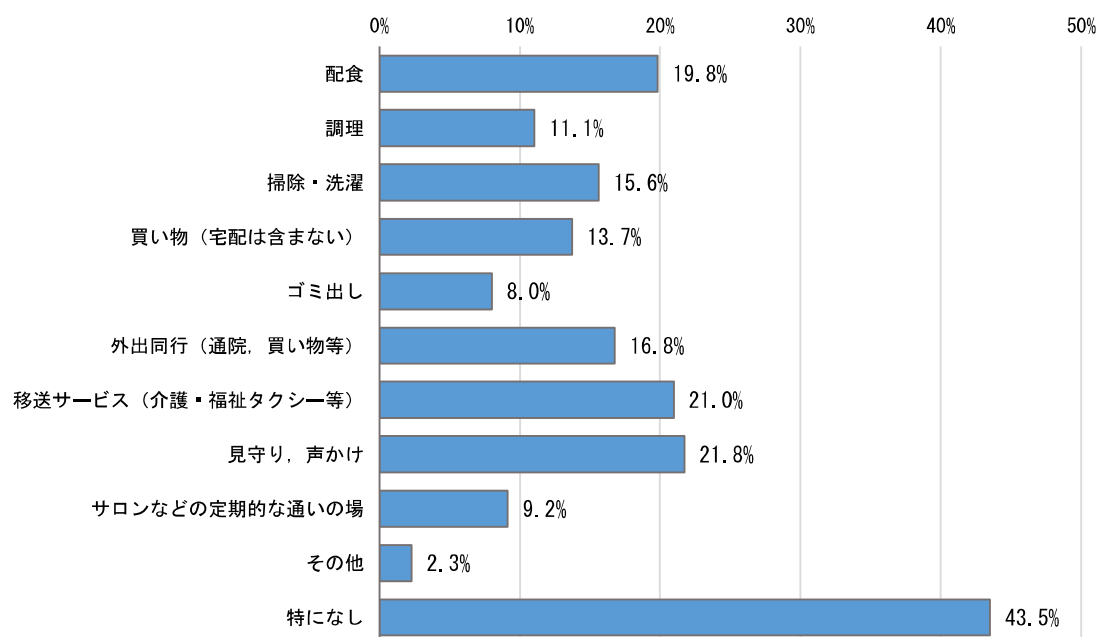
図表 3-15 主に介護している方が行っている介護



(5) 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについて、「特になし」が43.5%と最も多く、次いで「見守り、声かけ」の21.8%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の21.0%となっています。

図表 3-16 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

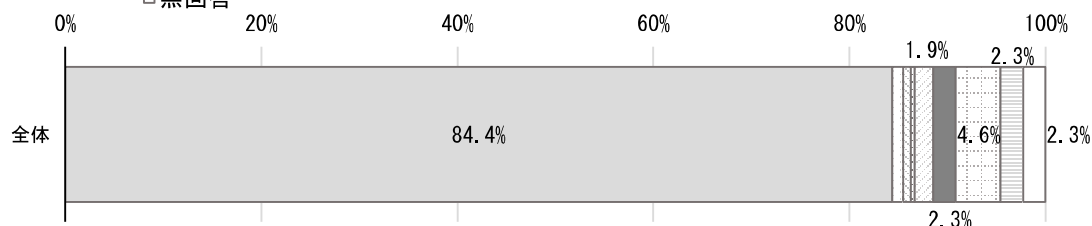


(6) 今後希望する生活場所について

今後希望する生活場所について、「現在の住居にずっと住み続けたい」が84.4%と最も多く、次いで「介護保険施設に入所したい」の4.6%、「有料老人ホーム・軽費老人ホームに入居したい」の2.3%となっています。

図表 3-17 今後希望する生活場所について

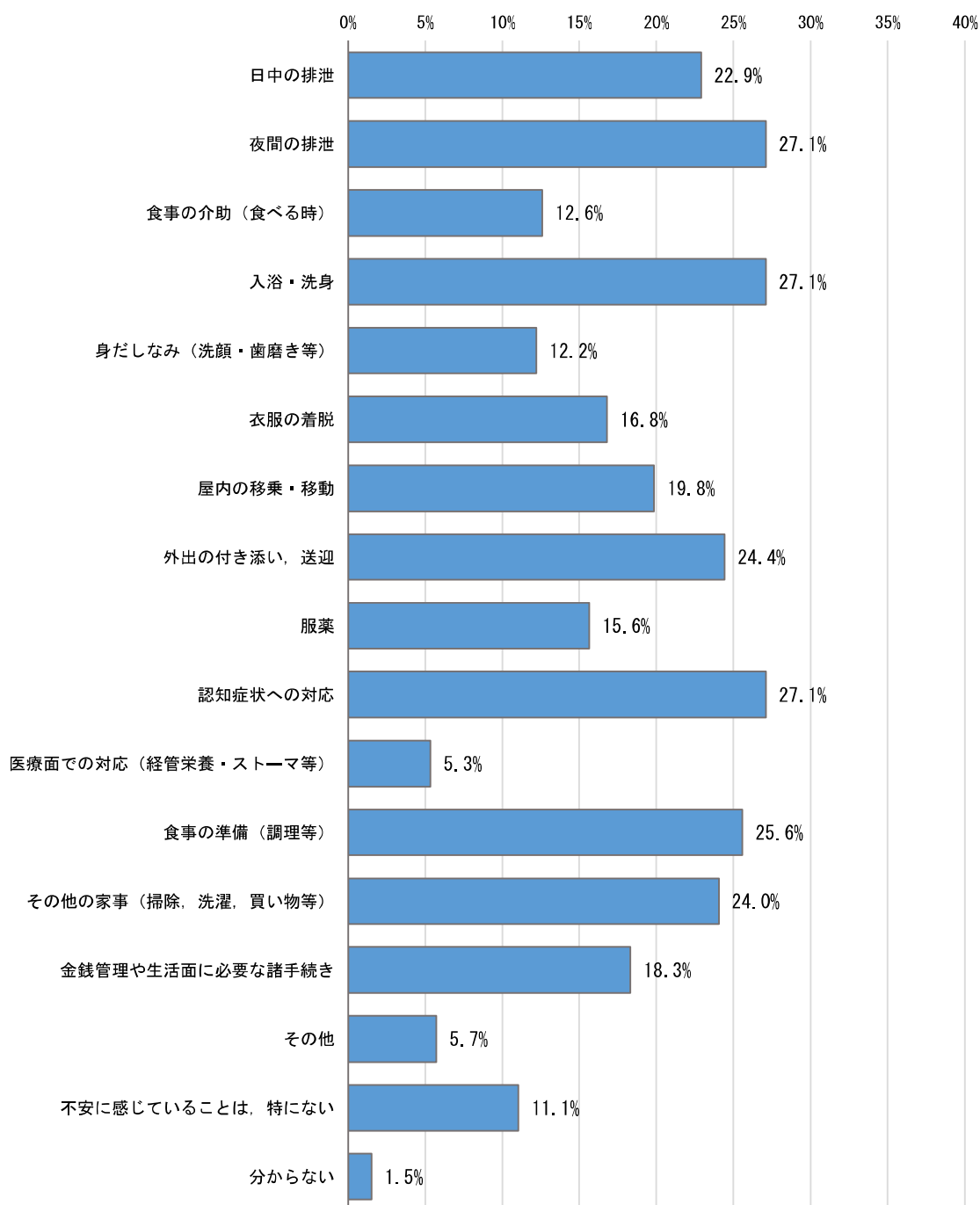
- 現在の住居にずっと住み続けたい
- 買い物や通院に便利な市街地に住居を買って（借りて）移り住みたい
- 自然豊かで静かな環境の郊外に住居を買って（借りて）移り住みたい
- 家族や親族、兄弟姉妹のところへ移り住みたい
- 高齢者対応の住宅やアパートに移り住みたい
- グループホームに入居したい
- 有料老人ホーム・軽費老人ホームに入居したい
- 介護保険施設に入所したい
- その他
- 無回答



(7) 介護者の方が不安に感じる介護等について

現在の生活を継続していくにあたって、介護者の方が不安に感じる介護等について、「夜間の排泄」「入浴・洗身」「認知症状への対応」が27.1%と最も多く、次いで「食事の準備（調理等）」25.6%、「外出の付き添い、送迎」の24.4%となっています。

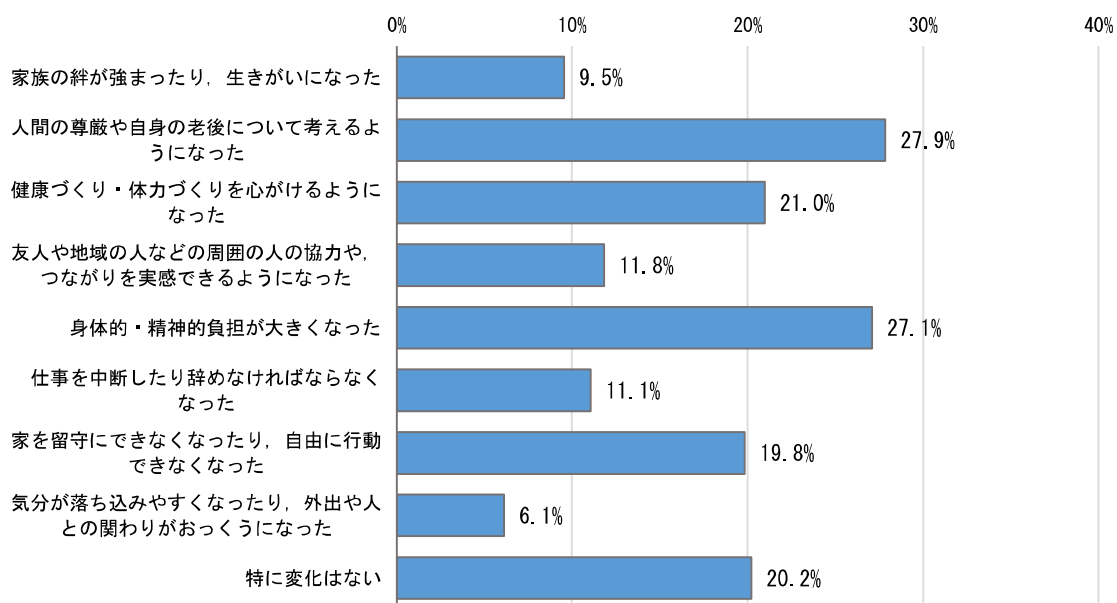
図表 3-18 介護者の方が不安に感じる介護等



(8) 介護者の方の体調や生活状況の変化

介護を行うようになって、あなたの体調や生活状況に変化が生じたかどうかについて、「人間の尊厳や自身の老後について考えるようになった」が 27.9%と最も多く、次いで「身体的・精神的負担が大きくなった」の 27.1%、「健康づくり・体力づくりを心がけるようになった」の 21.0%となっています。

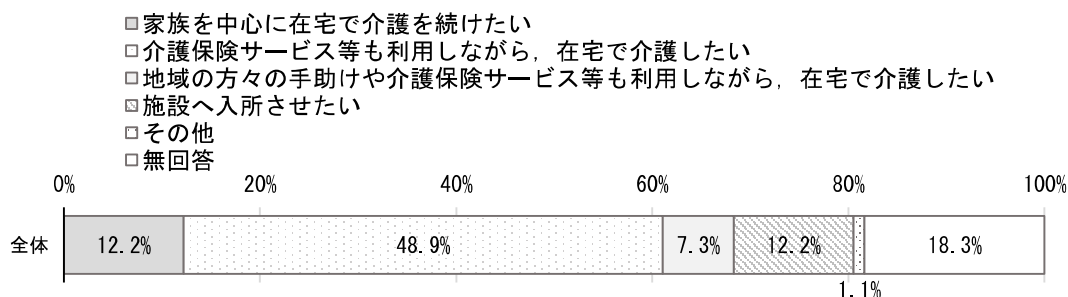
図表 3-19 介護者の方の体調や生活状況の変化



(9) 今後希望する介護

今後どのように介護を行っていきたいと考えているかについて、「無回答」を除いて、「介護保険サービス等も利用しながら、在宅で介護したい」が 48.9%と最も多く、次いで「家族を中心に在宅で介護を続けたい」「施設へ入所させたい」の 12.2%、「地域の方々の手助けや介護保険サービス等も利用しながら、在宅で介護したい」の 7.3%となっています。

図表 3-20 今後希望する介護

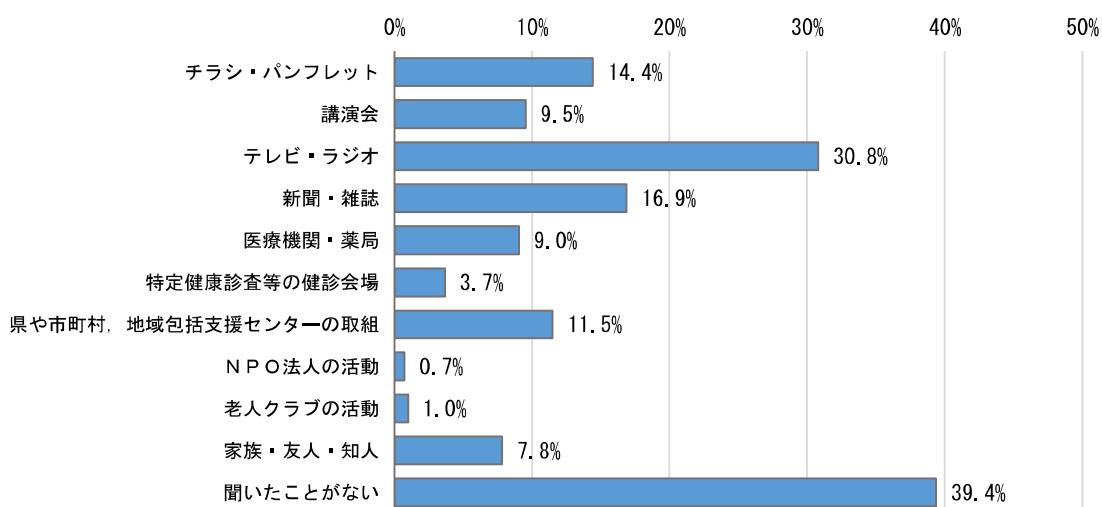


4. 若年者調査

(1) 「介護予防」という言葉を聞いたことがありますか

「介護予防」という言葉を聞いたことがあるか、聞いたことがある場合、どのような機会・場所で知ったかについて、「聞いたことがない」が39.4%と最も高く、次いで「テレビ・ラジオ」の30.8%、「新聞・雑誌」の16.9%となっています。

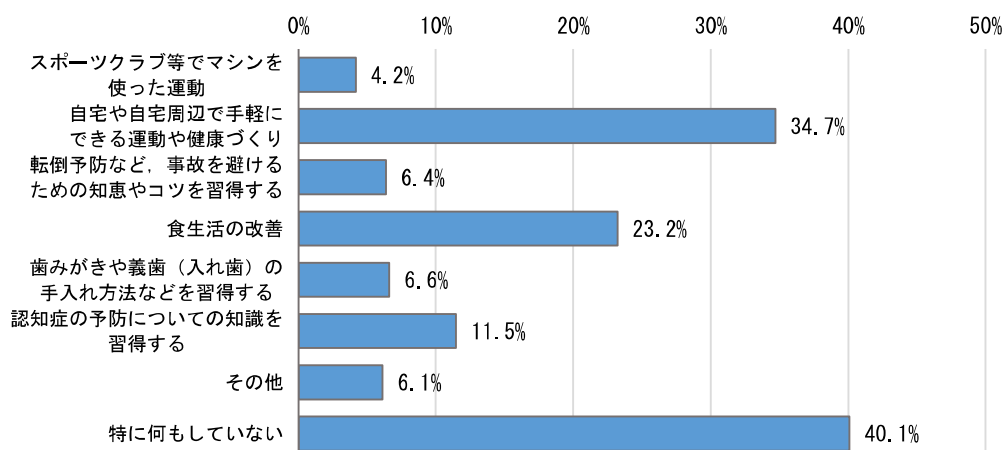
図表 3-21 「介護予防」の周知状況



(2) 要介護にならないための運動や健康づくりに実際に取り組んでいますか

将来、要介護にならないために実際に取り組んでいる運動や健康づくりについて、「特に何もしていない」が40.1%と最も高く、次いで「自宅や自宅周辺で手軽にできる運動や健康づくり」の34.7%、「食生活の改善」の23.2%となっています。

図表 3-22 運動・健康づくりの取組状況



(3) 介護予防のための取組について、県や町にどのような取組に力を入れてほしいか

介護予防のために、今後、県や市町村に特に力を入れてほしい取り組みについて「認知症の予防（早期発見）・支援（早期受診）に関すること」が58.9%と最も高く、次いで「運動・転倒予防に関すること」の48.7%、「栄養改善に関すること」、「閉じこもりの予防・支援に関すること」の36.7%となっています。

